

## 26L-am03

外来化学療法における服薬指導と問い合わせ業務

○高木 昭佳<sup>1,2</sup>, 須佐 充<sup>1,2</sup>, 阿部 充伸<sup>1,2</sup>, 山之内 恒昭<sup>1</sup>, 三村 泰彦<sup>1</sup>,  
菓子井 達彦<sup>2,3</sup>, 加藤 敦<sup>1</sup>, 足立 伊佐雄<sup>1</sup>(<sup>1</sup>富山大病院薬, <sup>2</sup>富山大病院化学療法  
セ, <sup>3</sup>富山大病院がん治療部)

【目的】富山大学附属病院外来化学療法センターでは薬剤師による無菌調製に加えて、化学療法や疼痛評価を含めた服薬指導を行っている。今回、安全で質の高い外来化学療法を提供することを目的とし、外来において服薬指導を行うことで医師へ問い合わせとなった内容について収集・解析を行ったので報告する。【方法】平成20年1月～平成20年11月までの11ヶ月間に、外来化学療法センターにおいて服薬指導を行った症例を調査対象とした。調査対象期間中に、医師へ問い合わせた内容について「注射薬」「内服・外用薬」「その他」に分類し、解析を行った。【結果】調査対象期間中に実施された化学療法は1736件で、その内患者指導を行った件数は1693件（実施率97.5%）であった。医師へ問い合わせた総件数は376件で、その内患者指導を行うことで問い合わせとなった件数は64件（注射薬：7件、内服・外用薬：56件、その他：1件）であった。注射薬に関する問い合わせは、有害事象に伴う副作用対策や投与量の変更、投与スケジュールの確認といったものであった。内服・外用薬に関する問い合わせでは、有害事象に伴う支持薬や疼痛評価に伴う処方提案が最も多く、次いで処方漏れや患者希望による処方依頼、残薬調整であった。問い合わせ業務後の変更率は、注射薬で100%、内服・外用薬で92.9%であった。【考察】安全で質の高い化学療法を実施するにあたり、処方せんや注射オーダといった情報だけでは不十分である。患者から有害事象や疼痛などの苦痛についても十分に傾聴を行い、それらを評価したうえで医療スタッフ間で情報の共有をしていくことが重要である。今後は、問い合わせるべき情報を効率的にスクリーニングできるよう業務の改善を図っていく予定である。